平成19年10月20日発行

『合併記念公園整備についての要望書』を提出

高山市が進めている合併記念公園整備について当会は平成19年9月28日（金）高山市へ『合併記念公園整備についての要望書』を提出しました。（小野木、木下、宝田）

高山市合併記念公園は17年2月に旧高山市と周辺９町村が合併したのを記念して、現在市内に５箇所ある公園を整備する事業です。（整備時期は19・20年度の２年間）『広報・高山』（5月15日号）で具体的な整備計画が発表されてから運営委員や市民の方から疑問や問題があるとの意見があり、5月29日に運営委員４名（小野木、木下、直井、伊藤）が市役所へ行き説明を聞き、それをもとに運営委員会で検討した結果、要望書にして出しました。

要望書では“公園整備の基本的視点の見直し”と、５箇所の中で自然環境に影響のある整備が行なわれそうな〈モンデウス飛騨位山スノーパークエリア〉と〈美女高原エリア〉の２箇所について要望しています。

要望書提出時に於いて、要望内容と共に口頭にて5月29日の時にお願いをした「地域住民との意見交換会設定とそこに当会の代表参加」がまだ成されていないことについて再度お願いをしました。また、「市民に対して広報で示された整備内容よりも具体的な内容の公表はないのか」との質問には「公表予定はない」との回答でした。

当会としては『合併記念公園整備』の経過を見つめこれからも考えていきます。

アサギマダラにマーキングをしました

8月19日、高山市高根町日和田高原から下呂市小坂町濁河温泉に通じる「飛騨御岳尚子ロード」の沿道で鈴木俊文氏の指導の下、渡りをする蝶・アサギマダラにマーキングをしてきました。

当日は天気も良く、この時期に高原に咲いているヒヨドリバナなどに蜜を吸いに来るアサギマダラ36頭を捕獲し、その翅に個体識別が出来るようにマーク（標識）をし、放蝶してきました。マークしたそれぞれの記号等は後日、アサギマダラの標識調査をしている団体に報告しましたが、現在のところ再捕獲の報告は来ていません。再捕獲の報告を楽しみに待っているところです。

2007年　9月　28日

高　山　市　長
土　野　　守　　殿

乗鞍岳と飛騨の自然を考える会
会　長　　飯　田　　洋

合併記念公園整備についての要望書

合併記念公園の整備については、基本方針として「自然（森林）を活かした公園づくり」共通テーマとして「自然とのふれあい」が謳われていますが、市の広報紙で公開された構想やイメージ図によりますと、「ふれあうべき自然とは何であるのか」…と疑問に思われる点が多々見受けられます。基本方針や共通テーマの具現化が忘れられ、「新・生物多様性国家戦略」において生物の多様性の保全と再生が社会規範となってきているという流れの中で、今回の公園整備の中味は依然として土木工事に頼った人工公園・造園の視点の旧態を脱していません。「ふれあうべき自然」とは、その土地にあるがままの自然の反映であり、路傍の雑草や群落、雑木林であり、これらふるさとの多様な生態系の中でのふれあいを考えるべきであって、植木、花木、園芸種等々ではありません。

そこで五ヶ所の合併記念公園整備については、以下のとおり要望します。

公園整備の基本的視点の見直し

①　今ある自然を最大限に大切に保全する。

②　特定の「種」（花木）だけでなく、生物のつながりを重視し、例えば美女高原エリアなら湿地と集水域というように生態系全体を保全することに努め、造成事業の場合はそうした自然の再生・復元策を行なうべきで、人工の池や花壇造りは行なわない。

③　人間がつくりあげ造成するのではなく、その土地の自然の回復力を助ける工法、施策を行なうこと。

④　よその土地の「種」（外来樹木、花木園芸種）を断じて持ち込むべきではなく、その土地にもとからあった「種」（潜在植生）を生かすこと。

※「外来生物法」の主旨は、外国産のみならず、国内自生種でも遺伝子多様性保全の立場から、移入は行なうべきではない点を忘れてはならない。

以上のことを踏まえ、「モンデウス飛騨位山スノーパークエリア」「美女高原エリア」の整備について要望します。

モンデウス飛騨位山スノーパークエリア

特に山頂一帯は、県立自然公園でもあり、自然公園法の景観保全の観点からも以下のことを要望します。

1、登山口の芝桜の修景、スキー場脇の登山道沿いの桜の修景は、「ふれあうべき自然」とは何であるかの理念を忘れた愚かな行いです。登山道に自生する多様な夏緑広葉樹や温帯性日本固有の針葉樹の数々こそが「ふれあうべき自然」であり、桜の植栽は街中や都市公園内で行なうべきです。

芝桜の修景場所にはイチイを植栽すべきで、位山の登山口にふさわしい緑といえます。

2、位山の山頂一帯は、生物多様性保全の立場からも、自然公園法の精神からも、厳正に自然環境保全すべき貴重な生態系の聖地とすべきです。展望広場を造成する必要はなく、自生植物の伐採は原則として禁止すべきです。

※　乗鞍岳、御嶽山、その他飛騨山脈等々の展望、眺望は、スキー場上部の登山道沿いに整備すればよく、位山山頂部の自生植物を伐採してまで展望広場、展望台を造成し、都市公園・造園化する必要はない。

※　神の宿る聖なる信仰の山（水無神社奥宮。山そのものが御神体。）、歴史を秘めた「人文遺産」であるとともに、生きている樹木博物館といえる「自然遺産」である位山の特質を踏まえ、「手を加えないこと」を原則とした「登山」の為の山岳のあり方のモデル地とすること。

美女高原エリア

1、美女ヶ池を拡張し、水生生物の移植を行なうとありますが、各地で流行のビオトープ造成手法の安易さ、その誤った手法となる虞れがあります。本来この地に自生しない「種」を持ち込むべきでなく、水生生物の移植は最大限の配慮が必要です。

2、ドイツスズランその他「花」をコンセプトに外来の園芸種花壇づくり、花木植栽が行なわれようとしていますが、「ふれあうべき相手の自然」とは、そうしたものではなく、この地の自然史を反映しているこの地本来の自然生態系のはずです。人口花壇づくりは行なうべきではありません。

以上

位山

藤本健三

位山は、上代全山がイチイの原生林でその木が笏(しゃく)に用いられていた。よって位山の命名になった。(広辞苑) また、磐座(いわくら、神の鎮座する所)からきたと旧宮村史(276頁)に岡村利平氏が述べられている。

磐座で有名な山はならの三輪山(みわやま)である。この山は日本最古の神社、大神(おおみわ)神社の神体山で、宮には本殿がなく、山が本殿である。

奈良盆地をめぐる青垣山の東に秀麗をほこる三輪山は往古から神のまします神聖な山であって、古墳時代始め(三世紀)祭祀権を持ったものが王であり、首長であった。卑弥呼と云う「ヤマト トトヒ モモソヒメ」は三輪山の神の妻で(崇神紀)、三輪の神が夜な夜な通われた。ふとしたことで夫婦が分かれることとなり、それを苦に卑弥呼が亡くなったといわれる。卑弥呼の墓は箸墓(はしはか)古墳で日本最古の前方後円墳である。

三輪山の形はコニーデ形(円錐形・笠状)であって全山鬱蒼とした森林が覆い、人工によるかとも思われる程に整った美しい山容である。頂上には奥津(おきつ)は磐座・稜線中程に中津(なかつ)磐座拝殿の三ッ鳥居より少し入って辺津(へつ)磐座があって足を踏み込めない禁足地がある。山麓には磐座が多くあって伊勢神宮の元宮・松原神社も近隣にあり、多くの祭礼が行なわれたようだ。

飛騨では国府町荒城神社の神体山「上御山(じょうごやま)」も美麗であり,位山も笠状の山は“神の宿る山”として素晴らしく、高山市花里踏切から眺望するとV状の越後谷に冠絶する位山は威厳がある。何故か高山市街で越後谷に六・七世紀の古墳が集中する。越後の名前がイチゴからと云うが位山・古墳があって、魂の越す越後谷かもしれないと思う。他に新潟県越後一宮弥彦神社

の弥彦山など神位の高い宮に神体山がある。

さて、位山の整備と聞くが、歴史と伝統を重んじその延長線上の整備なら良いが、安易に公園が造られたり、不浄に無関心であってはならない。飛騨唯一の位山でありみれば1ヶ所くらい自省の地があってよい。イチイの大森林山を造ってほしい。かつて行なわれた『宮村シンポジウム』で梅原猛氏は「もっと森林帯を多くせよ」と結論された。他の山に公園をつくり、位山を眺望するようにしたら良い。奈良の三輪山に比肩できないだろうか。古雅の趣を保存していただきたいものである。

高山市合併記念公園整備

高山市は平成17年2月に旧高山市、丹生川村、清見村、荘川村、宮村、久々野町、朝日村、高根村、国府町、上宝村の１市９町村が合併し新高山市となり日本一広大な市となり、この合併を記念し市では市内5ヶ所に於いて「合併記念公園整備」を行なうことにしました。この合併記念公園の整備にあたり市民に提案募集をし、それを参考にして「合併記念整備構想」を策定しました。

合併記念整備構想によると記念公園は「高山市合併まちづくり計画」と「高山市第七次総合計画」で位置づけられていて、その基本方針を

「合併後の高山市を象徴するような自然（森林）を活かした広々とした公園」

「誰もが気軽に訪れ・やすらぎ・親しみ愛される公園」

とし、**「自然とのふれあい」**を共通のテーマにして５箇所に個別のコンセプトを設定しています。

〇公園整備５箇所のコンセプト

(1)　原山市民公園エリア（高　山）**「　人　」**

(2)　グリーンパークひろ野・エアパークエリア（丹生川）**「　空　」**

(3)　モンデウス飛騨位山スノーパークエリア（一之宮）**「　緑　」**

(4)　美女高原エリア（朝　日）**「　花　」**

(5)　宇津江四十八滝自然公園エリア（国　府）**「　水　」**

(公園整備の基本的な考え方)についてそのイメージとして

ふるさと高山として人々の心に残る「景色」となる公園を目指します

また、“公園をつくる”の項目では

・大規模な開発整備は行わず、地域の地形等を利用した遊具の整備など、自然を最大限活かした公園整備

・２０年、３０年後を見据え、歴史、伝統、文化など地域の魅力を引き出すとともに、地域の活性化につながる公園整備

・自然とふれあえる遊歩道等の整備、歴史街道の再整備など、地域特性を活かした整備

・植栽は、合併市町村指定木、飛騨特有の樹木・花、四季折々の花を基調とした整備

と記載されています。

高山市は公園整備構想を基に、設計プロポーザル（整備計画提案および審査会）を平成18年11月25日・26日に行い、平成19年5月15日発行の高山市広報「たかやま」（第1038号）で設計された公園イメージ図を発表しました。

要望書で取り上げた〈モンデウス飛騨位山スノーパークエリア〉と〈美女高原エリア〉の整備について『合併記念整備構想』より抜粋して掲載します。（イメージ図は広報「たかやま」より）

○モンデウス飛騨位山スノーパークエリア（一之宮）

スキー場や森林エリアをメインとして、林道や登山道で結ぶ位山山頂を公園エリアとしています。

① 現況等（省略）

② コンセプト 「 緑 」

③ 要 素 「 巨樹巨木・巨石 」

④ 整備方針

○源流の里として自然環境の保護・保全の場

○巨樹・巨木への畏敬を感じる場

○原生林を活用した環境教育や自然体験学習ができる場

⑤ 公園対象エリア 約 ８６８ha

⑥ 整備の基本的な考え方

○巨樹巨木、巨石めぐりをとおして、自然を満喫でき、環境教育や自然体験学習ができる位山ゾーンとしての整備（一部省略）

・ダナ平林道、苅安林道、登山道は、手すりや柵、急傾斜地における階段など安全確保のための整備（林道舗装整備はしない）

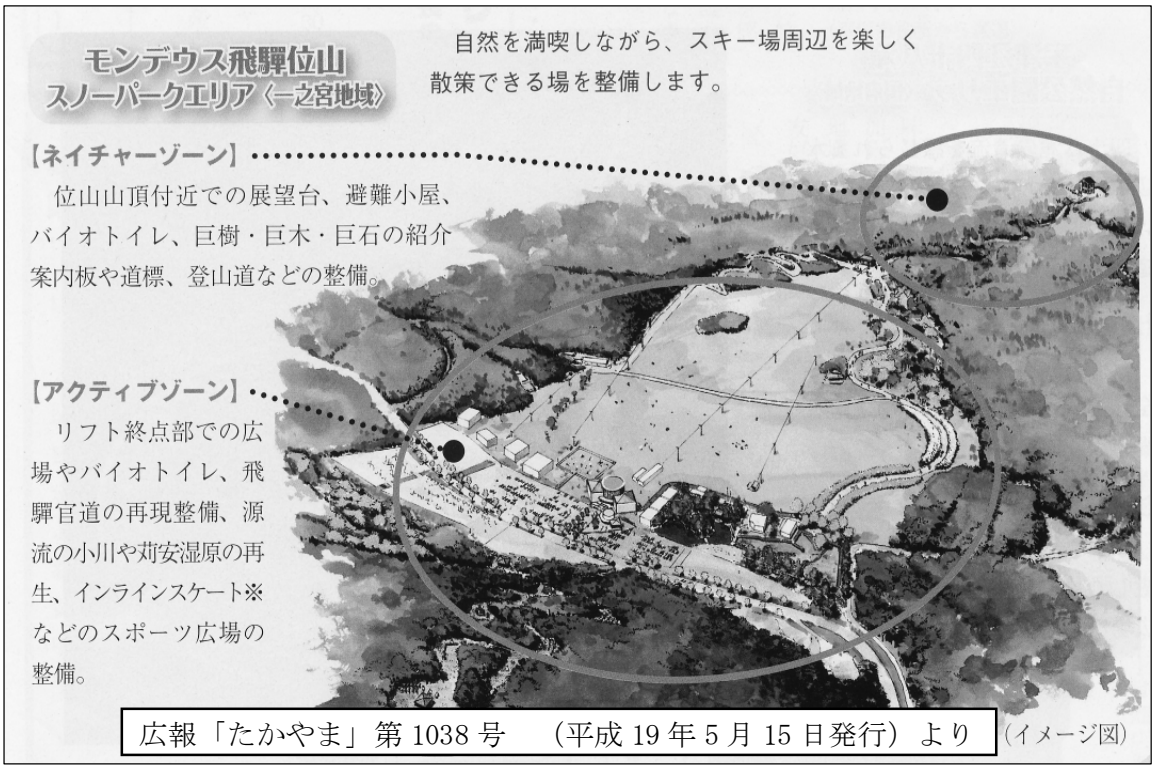
・雄大な眺望を楽しむため、位山山頂及びスキー場リフト終点付近に展望台等の整備

・自然環境の保護・保全によるバイオトイレの整備

・体力、年齢に合わせたウオーキングコースの設定及び案内看板の設置

・歴史ある飛騨官道の復元整備と、それらを紹介する看板の設置

○エリアの拠点施設として、各種イベント、四季をとおして多目的に利用できるモンデウス飛騨位山スキー場ゾーンの整備（省略）



広報「たかやま」第 1038 号 （平成 19 年 5 月 15 日発行）より （イメージ図）

○美女高原エリア（朝 日）

美女ヶ池やその周辺をめぐる散策路、キャンプ場等を中核とし、旧江戸街道沿道を公園エリアとしています。

① 現況等（省略）
② コンセプト 「 花 」
③ 要 素 「 スズラン・ミズバショウ 」
④ 整備方針
○花々・池と親しむ場
○歴史街道と花々にふれあう場
○花々の保護・保存の場
⑤ 公園対象エリア約 ２３ha
⑥ 整備の基本的な考え方
○ミズバショウ等、四季をとおして地域特有の花を楽しむことができる美女ヶ池周辺ゾーン整備（一部省略）
・風車等による自然エネルギーを利用した水質浄化と噴水の整備
・四季折々の花を楽しむことができる、郷土の花の植栽整備
・美女ヶ池から乗鞍が眺望でき、また、周回散策路のイメージを明るくするため、一部間伐、伐採による整備
○花や芝生に囲まれたいこいの場として、また、美女高原の駐車場として多目的に利用できる園地・キャンプ場ゾーンの整備（省略）
○歴史的な街道を活用した、歴史・文化とふれあうことのできる街道ゾーンの整備
・歴史、文化、伝説を紹介する看板の設置
・江戸街道のルートの整備及び復元
・自然、歴史、文化にふれる中部北陸自然歩道の再整備

美女高原エリア
〈朝日地域〉

美女高原の象徴である美女ヶ池を拡張し、湖面に乗鞍を映し出したり、水生生物の移植を行います。また、水辺の回廊、観察舎、木製の展望デッキ、美女ヶ池の歴史や周りの植物を紹介するコーナーを設けた東屋などを整備するほか、江戸街道を再現します。

広報「たかやま」第 1038 号　（平成 19 年 5 月 15 日発行）より

◎高山市合併記念公園整備構想の詳細を知りたい方は

高山市のホームページ（http://www.city.takayama.lg.jp/）　→　**行政情報**　→　**サイトマップ**

サイトマップ画面の検索欄に**「合併記念公園整備構想」**と入力し検索してください。

表示された画面には、昨年行なった合併記念公園整備に関する提案募集したその結果報告や、エリアごとの構想も見ることが出来ます。

アサギマダラマーキング　8月19日

（写真・左上）鈴木俊文氏からアサギマダラやマーキングの説明を聞く

（写真・左下）さあ。マークをしよう

（写真・右上）マークしたアサギマダラ

※当日のマーク例

T	K	N	タカ	001
①	AⓀAⓃE		㋟㋕ラダ	番号

参加者　鈴木俊文、直井清正、横山優希･瑞希、村瀬宏規・美奈子・奏絵、高嶋恵子、市林義将、尾崎裕子、佐藤八重子、松崎まみ、住寿美子、宝田延彦

祝初登頂　秘境チベット　**モンタ・カンリ峰登山報告会**

この９月に、中国チベット自治区のヒマヤラの未踏峰モンタ・カンリ峰（6425m）に**初登頂**した飛騨山岳会登山隊の登山活動の様子を、市民の皆様に報告されます。

当日は映像を主体に、登山隊と同時期に入域したトレッキング隊のオノボトリ峰（5600m）登山の様子や、珍しいチベットの人や風土などについても報告されますので、ぜひ気軽にご参加ください。

■主　催　飛騨山岳会

■日　時　１１月１７日（土）午後２時～４時頃まで

■会　場　高山市民文化会館（昭和町１丁目）２階３号室

■会費等　無料です。予約もいりません。

御岳山麓で思い出した事（自然観察会に参加して）

住　寿美子

今から四十数年前に父の運転するダットサンに乗って、御岳山麓に行ったことがある。そこが何と言う地名のところなのかは覚えてはいないが、山肌には大きな木の切り株が沢山あった事と「木を切った後に、カラマツという木を植えるんやぞ」と言った父の言葉を覚えている。

私の小学生の頃の高山はまさに「木の国」で、町のあちこちには丸太や板が高く積まれており、木の香りに包まれていた。

当時、父は木材の加工会社に勤めていた。父は夏休みの研究課題を決めかねている私に「材木の行方」を調べてみてはどうか、とアドバイスしてくれた。私が小学校の４年生頃であったと思う。そして１週間程会社へ私を連れて出勤してくれた。

父の案内はまず山の現場から始まった。最初に案内してくれたのが清見村森茂の伐採現場だった。そこには太いワイヤーが巻かれたとてつもなく太いブナの木が切り出されて横たわっていた。当時から数十年たっているのに、今も私の脳裏にその姿が焼きついているのは、木肌の美しさと太さが印象的だったせいだろうと思う。

父がブナの木を見て説明してくれたことも印象的だった。「ブナは木無しって書くんや。木として役にたたんという意味や。この木は会社へ運ばれて、外国の家用の床材になるんやぞ」。役にたたない木で床を作っても大丈夫なんだろうかと思ったものである。

次に父が案内してくれたのが会社の中にある、製材の工場であった。丸太を板状に切り、一枚一枚丁寧に床材に仕上げ、乾燥室で乾燥させて海外へと旅立たせる工程を見せてもらった。

そして会社の案内を終えた父は、私を御岳山の見えるところへ連れて行ってくれた。そこで父は「此処は国の山なんや。沢山の材木を切り出して家を作ったり、橋を作ったりしたんや。このあとに又違う木を植えるんやぞ」と説明してくれた。

早い成長を願って植えられたカラマツたちは、今大きく成長して御岳山麓を埋め尽くしている。春には柔らかい芽吹き色で、夏には強い緑色で、秋には黄金色で、そして冬には天空を鋭く指すような姿で御岳山麓を彩っている。数十年前に植えられた時に、人が託した期待という重荷を、一つ一つ下ろし此処まで成長してきたカラマツたちの姿を、それはそれで美しいと思う私は間違っているのだろうか。　　（7月の御嶽自然観察会参加）

■ 会員を募集しています！ 年会費 ＝ 個人 2,000 円　家族 3,000 円　団体 5,000 円
あなたの知人、友人に　・ 郵便振替　00800－8－129365
入会をおすすめください　・ 振 込 先　乗鞍岳と飛騨の自然を考える会

くらがね通信　第 30 号　（秋号）　平成 19 年 10 月 20 日発行
発行者　乗鞍岳と飛騨の自然を考える会　〒 506－0055　岐阜県高山市上岡本町 4－218－3　飯田 洋
TEL　0577－32－7206 ・ FAX　0577－32－7207

編集室では皆さんからの原稿、ご意見等をお待ちしています。
■ 編集責任者 ：宝田 延彦　E-mail : nobu1995@peach.ocn.ne.jp　TEL(FAX 兼) 0577－34－1287
■ 編　集　者 ：住 寿美子　TEL　0577－34－7237
表紙写真提供：小池 潜　　印刷：アドプリンター